

債権者間の協調の失敗と負債の価格付け
- 公表情報、私的情報と大口債権者の役割を中心に -

横浜市立大 武田史子

法政大学 武田浩一

< 報告要旨 >

多額の負債を抱えて流動性危機に直面した企業は、他の債権者の取り立てで企業が倒産してしまわないうちに自分だけでも債権を早期に回収しようとする債権者の行動によって、本来であれば再建させるのが望ましい場合でも倒産に追い込まれることがある。本研究では、そのような債権者間の協調の失敗がもたらす非効率的な倒産の可能性が、負債価格にどのような影響を与えるかを、グローバル・ゲームの枠組みを用いて考察した。分析の結果、大口債権者と小口債権者が存在する下での負債の債権者間の協調問題において、大口債権者が債権に占めるシェアや保有情報の正確さが、プロジェクト成功の可能性や負債価格に対して重要な影響を与えることが確かめられた。大口債権者と小口債権者の両方が正確な情報を保有する極限のケースでは、大口債権者のシェアの増大や私的情報の正確さの向上は、プロジェクト成功の可能性を高めることが明らかになった。極限以外のケースでは、大口債権者のシェアの増大や私的情報の正確さの向上は、プロジェクト成功の可能性を高めて利子率を低下させることもあれば、逆に失敗の可能性と利子率を高めることもあることが確認された。また、ファンダメンタルズに関する事前の公表情報については、公表情報の平均値が高くなると、プロジェクト成功の可能性が高まり、利子率を引き下げる効果があることが確かめられた。